

令和元年度 第1回北海道アザラシ管理検討会（打合せ）開催結果〔概要〕について

【日 時】令和元年10月8日（火）13:10～14:05

【場 所】礼文町町民活動総合センター（ピスカ21）2階大研修室

【出席者】＜検討会構成員＞小林教授、宮内教授、山村准教授、後藤主査、大石組合長

＜オブザーバー＞太田課長補佐（環境省北海道地方環境事務所野生生物課）、
津田自然保護官補佐（稚内自然保護官事務所）

＜事 務 局＞ 藤島課長、山中主幹、梅谷主査（以上、生物多様性保全課）、
中島係長（宗谷総合振興局環境生活課）

■議事概要

1. 令和元年度 周年定着個体数の状況について

＜発言要旨＞

- ・ 今年度の周年定着個体数については現時点では集計等が進んでいないため、具体的な数字を示すことはできないが、昨年並みの印象である。
- ・ 捕獲等の実施により、礼文島においては確実に数が減少している。
- ・ アザラシ被害については、間接被害（漁獲物に対するもの）がほとんどで、直接被害（漁具破壊等）はほとんど無い。

2. 北海道アザラシ管理計画 令和2年度事業実施計画について

＜発言要旨＞

- ・ 直ちには実施できないが、野生生物の管理を行う上で、日本で行っている捕殺が個体群全体にどのような影響を与えているのか、評価手法を構築する必要がある。
- ・ そのためにも、ロシアの情報を収集する必要がある。
- ・ ソ連時代のデータ（1900年代のもの）はあるが、それ以降のデータが無いとされる中、2012年～2013年にかけて、アメリカとロシアが航空機を使用した大規模な氷上合同調査を実施した模様。今後、これらのデータを用いた評価等も可能になるかもしれない。
- ・ 令和2年度事業実施計画については、現時点において変更、修正等を要する箇所はない。
- ・ 次年度の北海道アザラシ管理検討会も、今年度同様に年2回の開催とする。

3. 令和2年度 北海道アザラシワークショップについて

＜発言要旨＞

- ・ 次年度以降のワークショップの開催地については、アザラシ被害のあるところを中心に、漁業者を主な対象として行うことが重要。
- ・ 多くの道民に周知するなら、札幌での開催も考えられるが、漁業者の利便性の検討も必要。
- ・ 日高はゼニガタアザラシによる被害が中心となっており、開催地として考慮しなくてもよい。
- ・ 宗谷と留萌を広域な連携地域と捉えて調査等を行っている観点から、次年度は留萌管内（天売島・焼尻島と羽幌等）を考えても良い。
- ・ その他被害がある地域としては、釧路・根室地域もある。